

19/5/20 河村たかし名古屋市長定例記者会見

(名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし)

----

【記者】文化庁審議会が今月中といわれる中もう終わったんじゃないかという話が一部聞かれる中、市長には何か伝わってきていますか。

【市長】まあ、名古屋の運命にとってというより日本文化史の極めて重要な話でございますのでとにかく、文化庁さんもこれは一切申し上げられんということでございます。

【記者】いつまで一切申し上げれないということなんでしょうか。

【市長】はっきりどうと結論が出るまで。

【記者】いつまでにはっきりとどう結論がでたら

【市長】結論はやっぱり皆さんに報告せなといかんし。

どうだこうだととか、そういう意味では、そのときには明らかに。そりゃまあそういうことです。

しかし、何遍も繰り返して言っておりますけど。

まあ、俺が俺がと言いたないけれど、これ

技術案提・交渉方式というのをとって、やりかけて何年になるのかなあ。5年くらいなるのかな。

これ。5年くらいなるのかなあ。

文化庁の方も担当が代わりますし、名古屋市役所もこないだ代わりましたけど、わししかおらんわけです当初からやってきたの。文化庁との交渉をね。技術提案・交渉方式をやるについてはあれですよと、ただし何偏もいってますけど。

これ国交省が僕に教えてくれたやつ、5年前位に、その前の年に全党一致で、

決まった法律がある。要するに

市営住宅の初めての方がおられるで、何回もいっとりますけど、普通の公共事業というのは発注側が決めるわけできちんと。こういうものを作るので、これでお金を入札してちょうだいよと、例えば市営住宅とか橋とか、そういうやつですね。だけど、

こういうその一特に石垣なんかはいろんな説があって10年かかるとか20年かかるとか40何年かかるんじゃないかという人もいますし、

かかってもわからんと本質的なところは。

全部わからんわけだ、オールオアナッシングじゃないですけど。

そういう場合は発注するときに、名古屋市が名古屋市が発注するときにどうものを作ったらええかということまでコンペして提案を求めて、でそういうやり方でもええかどうかという審査会も

はいります、審査会をやってオーケーになった場合には、そこでコンペをして優秀権者が選ばれたら、そのあとは随意契約、

こういう方式が実は5年前に技術提案・交渉方式といいますけど、今新しくできた、品確法と  
いったと思いますけど

そういうやり方でございます。

審査会も行われまして

そういうことで進んでいったと。

で竹中案と安藤&ハザマ案が2つの案が出てまいりましてこの竹中案が採用された。

ということです。

その時に竹中案って素晴らしいですね。

っていうふうに話は業務課長から。

ある課長さんからうかがったことがありますけれども、まあそういうことでございますけれども  
その代わり丁寧にいろいろ報告してくださいねというのが文化庁のお話でございます、ほん  
とくに丁寧に事あるごとに文化庁に話しまして、相談しながら

ここまで来たということでございます。名古屋市としましてはベストを尽くしたとした。

このところはいつのタイミングだったかちょっと文章がありますので。

これが名古屋城をどうするかだけで言葉でてにをは不正確ですけどこれがありまして、表  
にでてると思いましたけどね。

名古屋市が、当の名古屋市がどうするかをまず決めることと、という言葉が第一項に書い  
てあります。

そういうことをやってまいりまして、市長選もありましたけど。議会で議決もいただいてというこ  
とですね。

予算も議決されとりまして。

予算というのは執行する義務がありますので。

半分以上だと思えます。

材木も切つとります。

有名なところでは、例の月山松の奥州の樹齢330年、あれ竹中さんが数えたといっておしま  
した年輪を。330本あるということです

どえらい立派な真っ直ぐな松というのは大変らしいですよ。330年も地元の人が面倒を見ると  
いうのは、それもいただいてやってまいりましたので

これは、僕は名古屋市民の皆さんの大変切望されております、

心から願っておられます

木造復元にグッドニュースが来るであろうと僕は期待しております。

【記者】関連で、先だって文化庁に行かれたときに文化審議会に進捗状況については丁寧に説明してくるという趣旨のことをおっしゃってられましたけれど、先だって週末おそらく文化

財分科会があったのではないかとおもわれるのですが、審問されてたかどうかに関してぐら  
いは丁寧な説明が文化庁から受けてもいいんじゃないかと思うですけどふたを開けてみない  
とそもそも諮問されたかどうかわからんままで6月までいくのか、諮問はされましたという形で  
いくのかそのへんはだいぶん違うと思うのですが、その辺については確認されなんですか。

【市長】まあ、お気持ちわかりますよ。

わしもそりゃ、ね。そこら辺のそこは礼儀とっておりますけど、文化庁の方から申し訳ないけ  
どとあったかどうか知りませんが、一切申し上げられんという返事でございますので。  
これを守らんといかん。

【記者】市長が直接お聞きになったんですか。

【市長】僕ではないです。

【記者】担当者が。すると市長が以前から言っているように6月30日まではしないというかた  
ちですか

【市長】だが、その話はなかったとおもいますよ。今の時点において、一切申し上げられませ  
んということでした。

【記者】ということであれば市長自身がお聞きにならないのですか。

【市長】僕がかね。

僕は、一応そういうことでございますので、感じわるいがね、ところで。  
ところではなんですかとです。ね。  
グッドニュースを心からお待ち申し上げておることになります。

【記者】わかりました。

【記者】先ほども、おっしゃっていましたが、今回解体というのは  
認められるだろうという自信というか手ごたえは感じていらっしゃるのでしょうか。

【市長】自信といいますか。

ほんとにね、文化庁がおっしゃったとおりばかりでいかんですけど、本当に丁寧にやってきま  
したので、文化庁のご指示通りにきっちと。

なんで技術提案・交渉方式というのが新しい方式なんだもんだから、そのところの理解自体が若干文化庁はわかっておりますけど、分からん方もお見えになるということとことで竹中案が選定された。

それを基本としてやってくということ、やっとならね。

こんだけ名古屋市民の熱い期待があつて

何遍も言ってますけど。

財界というもののいわゆる奉加帳を回すようなやり方はしてませんから、今回は。

3億、前は3億3千万だったけどまだちょっと増えてるんじゃないかという話を伺っておりますけど。

小学生の十円募金やとら入るとるわけですよ。

そりゃ、やっぱりグッドニュースを兎に角待たにやいかんじゃないですか。ねえ、これは。

しかるべくご信頼申し上げますよ。

僕からつねにそういう気になりますよ、5年前じゃないですか、もう。

だから本丸御殿は違うんです発注方式というものが。本丸御殿なんかとは石垣とかないこととありますけれど、ふつうの名古屋市が発注するやり方ですわね。

市が、学者の皆さんやら学芸員の皆さんやで相談しあつて、

こういうものを、どうですかというのとは違うんですから。

そういう法律って、

あのときの1年前でしたから、6年前と違うの。

全党一致で、全党一致で即日施行された法律があるんです。

ですから、まあ市民の皆さんには喜んでいただけるふうにならんかなと熱い期待を持って見守っておりますけれども、

**【記者】**市長、一切申し上げられませんの説明の中には申し上げられるのは何時ですかというのには言っておったんですか。

**【市長】**それはちょっと、私連絡では聞いておりません。そこは。

**【記者】**関連してもうちょっとすでに出てるんですが、今回仮にもし解体が認められないっていう残念な結果になった場合、これは2022年末スケジュール目標についてはどうなるというようにみていらっしゃいますか。

**【市長】**これは議会でも同じような質問がありましたので、お答えしましたけど。

お願いしておる時にだめだったらどうするんだというような失礼な文化庁に失礼なことは申し上げられん、ということでございます。

そりゃまあ、そういうことです。

誠意を持ってやってきて、まあ誠意をもってやってくれとると思っておりますので、それを信ずるということでしょう、やっぱり。そう思いますけど。

【記者】関連なんですけれど文化庁から返事がもらえるスケジュールについてはわからないということだと思うのですが、その決定されるプロセス、どういった過程を経て許可がなされるのかという説明はどうだったんですか。

【市長】まあ、全然知らないわけでもないですけど、とにかく答えは、今はちょっと、差し控えさせてちょ。ちょとは言いませんでしたけど、お控えてください。ちょこつとということでグッドニュースをお待ちするということでもいいんじゃないかと思えますけど、僕は。

【記者】市長、関連で先ほど文化庁が誠意をもって対処してくれているっていう話ですけど、えーと、そういうを感じる部分というのは具体的にどういうところで誠意をもって対応してくれているといえるのか。

【市長】まあ、提出までにもいろいろ文化庁からのご指導もありまして、ここはこうやれとか。現場が知っておりますけどね。まあ、そういう丁寧なご指導があったと。それに従ってやって参りましたということで。

【記者】まあ、かなり密にそういう連絡し合ってやってたからと。

【市長】ああそれと折も折、この前にもいいましたけれども、ノートルダムの話もテレビでやっていますけど。

どういうふうに復元するかで大議論あると。

そんでNHKのなんか調査みたいなやつ。

55%か6割ぐらいが元の復元すべきだと。

まあ、そういうことでやっとなよ。

おはよう日本でかなあ、違うかもわかりませんが。

まあ、あそこヨーロッパの建物と日本の建物との違いですわね。

ヨーロッパはあんだけ激しく焼けたにしましても、

正面から見ると残っていますもんね。

パサードというのか、どういったらいいのか知りませんが、あれは。石の建物は残るわけですわ。

だけど、日本の木材の場合は何にもなしになりますわね、これ。

名古屋城もそうなんですけど。名古屋城ばかりじゃないんですけど

原爆の場合は、ぶっ飛んでいったわけなんですけど。

七つだったかなあ忘れちゃったけど、第2次大戦で残ったんですけど焼けたやつはナッシングですわ。その場合にどういふふうになんか本物性のオーセンティシティーと言いますけれど。本物性オーセンティシティーを考えていくのかという

大変重要な協議がありまして、文化庁なんかは奈良ドクトリン、是非グーグルくらいでみてほしいんですけど、奈良ドクトリンと言いまして

そして、なくなったとしても、やっぱりいろんな総合評価で考えていこうじゃないかと。

そこに図面があったり、真上に作ったり。

そうことですね。

その場合は、そこにもう一回つくられる建物は

実はオリジナルじゃねーのかと。

そういう考え方でしょう。

僕もそう思いますけどね、これ。

木の文化だからしょうがないけどなくなっちゃうんですけど。

今回は名古屋の場合は空襲という人類最大の悲劇によってなくなったということですから。

なくなったこと自体は本物そのものですからね、これは。ということで、

木の文化を象徴していくですね、巨大な一歩になっていこうと、

思いますけどもね。

日本だったら木のもんだったら燃えてまったらまあ終わりになってしまいますよ、全部。

過去の人々の建築物を作った営みですね、いろんな。

そういうものって、やっぱり記憶に留めておくちゅうのは人類の任務だと思ってそれこそ。それはやっぱりなくなったとしても引き継がれると。

総合的にみて。僕はそういう考え方ですので。

まあグッドニュースを待っていると

毎晩、最近ハイボールをよく飲みますけれど。焼酎の水割りからハイボール。

正しい発音はいろんな居酒屋で言っとる、ひやぼーるといわんといかんと。

ハイボールを飲みながら

日本文化の木の文化、夜明けの日を待っているとということでございます。